

令和6年度全国学力学習状況調査から見る本校の傾向と課題について

本年4月に6年生で実施しました、全国学習状況調査の分析結果をお知らせします。

なお、今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

実施日： 令和6年4月18日

- 調査の目的：
1. 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 2. 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 3. そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

令和6年度全国学力学習状況調査から見る本校の傾向と課題

羽曳野市立高鷲小学校
子ども学力部

国語

- ・本校の正答率は、全国・大阪府平均より若干下回っています。
- ・全体的に正答率の平均値が低い傾向にあります。

【できていること】

- ・メモなどにまとめられたものをいくつか比較しながら、その内容を理解すること。
本校正答率（72.5% 全国比 19.6↑ 府比 22.4↑）
- ・自分の考えをまとめ、書き表すこと。

【調査から見えた本校児童の弱いところ】

- ・資料から読み取った内容を加えて、自分の考えを書き表すこと。
本校正答率（41.2% 全国比 15.4↓ 府比 12.5↓）
- ・物語文において、描写をもとに本文の内容を捉える力 ・複数の条件を満たして解答をする力
- ・漢字を書くこと（きょうぎ→競技） 本校正答率（27.5% 全国比 15.9↓ 府比 13.9↓）

対策

- ・各学年の発達段階に合わせた様々な文章を読み、目的に応じて大切な情報や必要な情報を取り出して考えることの積み重ね。
- ・国語の学習に限らず、他教科においても問われていることを丁寧に確認したり、大切な情報を整理したりして積み上げていく活動の継続。
- ・文章だけでなく、複数の資料なども活用しそれを読み取る学習。さらに、そこから自分の考えや意見を述べたり、書いてまとめたりする機会を増やすこと。
- ・既習の漢字、文法事項を確認するための問題に取り組んだり、生活の中で活用する機会を設けたりすること。

算数

- ・本校の正答率は、全国・大阪府平均より若干下回っています。
- ・全体的に正答率の平均値が低い傾向にあります。

【できていること】

- ・数量の関係を□を用いた式に表す 本校正答率（92.2% 全国比 3.7↑ 府比 4.1↑）
- ・円グラフから割合を読み取る 本校正答率（84.3% 全国比 3.5↑ 府比 3.7↑）

【調査から見えた本校児童の弱いところ】

- ・問題場面の数量関係を正しく捉え式に表す 本校正答率（51.0% 全国比 11.1↓ 府比 10.1↓）
- ・速さ、道のり、時間の関係の理解 本校正答率（41.2% 全国比 12.9↓ 府比 11.8↓）
- ・グラフや表などから必要な情報を読み取り、そこから分かることを言葉や数を用いてまとめる。

対策

- 複数の資料からやデータから読み取ったことを、言葉や数を用いて記述する機会を授業の中でさらに取り入れること。
- 日常生活に即した問題に取り組みせ、問題を解く必要感を持たせながら学習を進めること。
- ICT の効果的な活用。(図形の単元、児童間での情報共有・情報交換など)
- 算数用語の意味理解の指導・確認。その知識を活用した問題の実施。
- 高鷲タイム、ランチタイムの時間を活用した基本事項(既習内容)の継続的な学習。

「6年生の児童アンケート」

【良好な結果】

- ☆ ほとんどの児童が朝食をとって登校できています。
- ☆ すべての児童がいじめはいけないことだと捉えています。否定的な回答はなく、相手の気持ちを考えて行動できています。
- ☆ 国語や算数は将来に役に立つ、大切だと考え、学習したことを生活の中に生かしたいと考えている児童が多いです。
- ☆ 課題に対してあきらめずに考えようとする児童の割合は8割近くで、全体的に努力しようとする姿勢が見られます。
- ☆ 発表する場や、自分の考えをまとめる活動など授業の中で、ICT(タブレット)を意欲的に使おうとしている児童が多いです。
- ☆ 授業の中でICT機器を使うことで友達と考えを共有したり比較したりできると肯定的に捉えている児童が多いです。(本校 90.2% 全国比 4.1↑ 府比 7.5↑)

【改善が必要な結果】

- ★ 家庭学習の習慣はある程度ついてますが、一方で、学校の授業時間以外に、家庭では「まったく勉強をしない」と回答した児童の割合も高いです。(本校 5.9%)
- ★ 家で本や新聞を読む時間が少ないです。「まったくしていない」と答えた児童の割合も高いです。
- ★ スマートフォン(ゲームや動画視聴)・SNSを使っている時間が長いです。全国・府平均と比べて若干少ないものの、4時間以上使用している児童が20%程度います。
- ★ 授業において、友だちと意見を交流する場面はとられているものの、自分と違う意見について考えることが楽しいと感じている児童の割合が全国・府平均と比べて低いです。